宮之城町の半世紀を振り返る

本町が誕生して50年の間に、様々な施策や出来事を経て成長・発展を続けたあゆみを紹介します。今回は、昭和35年～昭和39年までの主な出来事を振り返ります。

◇昭和35年3月

川口吊り橋完成

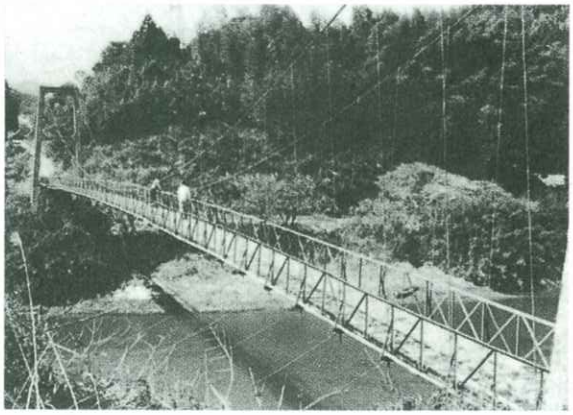
虎居川口に総工費約282万円、橋の長さ91m、幅員1．8mで、大人150人が一緒に渡れる程の大きな吊り橋が完成し、川口集落の方々が仕事や通学に利用されました。

◇昭和35年4月

水槽付消防ポンプ自動車を配備

昭和34年8月に虎居大火災が起こり、集団地における消火にはポンプ到着と同時に放水できる消防車が必要とのことで、総額220万円（町費121万円、地元負担50万円、国度補助49万円）の「水槽付消防ポンプ自動車」が川原分団に配備されました。

消防車は、約4分間無給水のままで放水できる性能を持っていたので、町としては常備消防と変わらない出動態勢の確立を目指し訓練を積んでいました。



川口吊り橋（おしどり橋下付近）

◇昭和36年5月

ごみ焼却場完成

虎居（宗功寺下）に総工費約160万円で、1日4tのごみを焼却できる施設が完成しました。

◇昭和37年11月

全国茶品評会で産地賞

第16回全国茶品評会が鹿児島市で3日間開催され、蒸製玉緑茶の部で本町が産地賞を受賞しました。

◇昭和37年12月

市外通話料が不要となる

町内の宮之城局、山崎局、佐志局、湯田局は同じ町内でありながら市外通話料金が必要でしたが、12月に統合され、町内（泊野局を除く）は市外通話料金が不要となり、即時に通話が出来るようになりました。

◇昭和38年1月

国民宿舎「さつま荘」オープン

一般の方々の休養施設として、国民年金の還元融資を受け、国民宿舎「さつま荘」がオープンしました。

温泉は訪れるお客の大反響を呼び情緒豊かな温泉郷として賞賛の的となりました。

国民宿舎「さつま荘」（新湯田橋の上流170m付近一帯）

◇昭和38年12月

テレビ中継局開局

紫尾山頂に日本で2番目に高い場所にある中継局としてNHK、MBCのテレビ中継局が開局しました。

◇昭和39年4月

宮之城警察署が移転

宮之城警察署が屋地から虎居宮都大橋際へ新築移転しました。

宮之城警察署（虎居宮都大橋際）

◇昭和39年4月

自家営農者育成奨学資金貸付制度を創設

農家のあととりの農業離れが深刻化し、今後の農業運営に大きな支障が生じることが懸念されたので、町内で農業に専念する若者に奨学資金を貸与する制度が創設されました。